

平成 29 年 12 月 7 日（木）午前 10 時から
於 ・ 市 役 所 5 階 5 0 5 会 議 室

第 2 回「小平市行財政再構築推進委員会」議事要録

出席者

【委員】松井委員長、川口副委員長、大杉委員、菅野委員、中川委員、長島委員

【市側】小平市長、企画政策部長、行政経営課長、行政経営課長補佐 3 名、行政経営課施設マネジメント担当係長、政策課長、財政課長、財政課長補佐、秘書広報課長補佐、収納課長、収納課長補佐、市民協働・男女参画推進課長、市民協働・男女参画推進課長補佐、産業振興課長、産業振興課長補佐、文化スポーツ課長、生活支援課地域福祉担当係長、高齢者支援課事業推進担当係長、高齢者支援課地域支援担当係長、指導課長補佐、地域学習支援課長補佐

1 開会

市長挨拶

2 小平市第 3 次行財政再構築プランの進捗状況について

(1) 地域協働の推進について

(中川委員)

プログラムNo.2 の協働事業の推進のボランティア登録数が記載されているが、実働人数は把握されているか。ボランティアは高齢化により、実働数は減少傾向にあるのではないか。

(行政経営課長)

イベントごとに参加人数は把握しているので、取組み実績に記載している。

上半期の状況であることから、年度末には数値を記載していく。

(松井委員長)

年度末までに目標値を達成できるのかというところが問題である。

(中川委員)

登録数と実働数は異なるのでしっかりと把握する必要がある。

(松井委員長)

観光まちづくりの推進の評価は成果指標として設定したアクションプランの実施数を上回ることから、A（予定どおりに進捗）の評価ではなくS（予定以上に進捗）の評価でいいのではないかと。

(産業振興課長)

観光まちづくり協会の運営において自主財源や会員数といったところに課題があるためA評価としている。

(長島委員)

そのあたりの対策として成果指標をかえればいいのではないかと。

(行政経営課長)

基本的に成果指標はかえられないことから、取組実績等で記載できるよう検討していく。

(川口副委員長)

事前質問の回答において、自主財源や会員数に課題があるということであれば、その次の質問に対してのアクションプランの推進した結果についても、首尾一貫して回答して頂きたい。

(中川委員)

庁内に地域の人材を共有できる人材バンクのような仕組みがあると市民協働はやりやすくなると思う。

(2) 情報の共有と双方向性のコミュニケーションについて

(松井委員長)

ホームページの9月末のアクセス数はどれくらいか。

(秘書広報課長補佐)

158万アクセスになります。

(松井委員長)

経年データはないが、目標値は実現できるか。

(秘書広報課長補佐)

例えば、選挙等の開催でアクセス数は伸びるし、スマートフォンからのアクセスが多いことから実現できると考えている。

(長島委員)

他市と比べてホームページのアクセス数はどうか。

(秘書広報課長補佐)

リニューアルも検討中であり、アクセス数は伸びており、他市に比べて多いと考えている。

(松井委員長)

市民参加のさらなる推進に係る検討の進捗はどうか。

(政策課長)

ホームページのリニューアル時に、WEBアンケートについて検討している。

計画策定の前段の実態調査のアンケートの際に紙だけでなくWEBでも回答できるよう検討しているがコストとの兼ね合いがある。

(川口副委員長)

市ホームページに関連して、自主財源の確保という観点で、広告収入をさらに増やす方を積極的に実施するべきではないか。計画はあるか。

(秘書広報課長補佐)

広告営業は出向いて実施している。DMでは効果がないと考えている。

(川口副委員長)

プログラムNo.10のなるほど出前講座「デリバリーこだいら」の推進は、成果指標的にB(予定よりも遅れている)の評価と思い、事前質問をしたが、回答欄の見込みの数を含むということであれば、調査票にその旨を記載して頂きたい。

(秘書広報課長補佐)

中間報告の数値の評価や記載については今後、事務局と検討していきたい。

(3) PDCAサイクルの構築について

(松井委員長)

事務事業の見直しの検討の進捗状況はどうか。

(行政経営課長補佐)

どのような事業を選定するか等、担当課で意見効果を実施している。

そのあたりを踏まえて、どのような仕組みにするかを年度末までには決定するところであります。

(川口副委員長)

補助金の効果の検証において、チェック体制を変えたとのことだが、どのように今までと変わったのか、あるいはその結果として効果があったのかを調査票に記載して頂きたい。

(財政課長)

平成28年4月に補助金の規則改正をして、財政援助団体の実績報告の際の補助金の目的等を明確にさせ、補助団体側の財務状況をしっかりと把握するようにわかりやすく様式上も対応しました。

(委員長)

その結果、どのような効果があったか

(財政課長)

予算編成において、補助金の意義そのものの判断は難しいが、繰越金の有無等、個別の判断に効果が出てくると考えている。

(4) 財政基盤の強化について

(川口副委員長)

保育園の運営経費が増えているのはかわっていないのか。

(財政課長)

昨年度7園、民間保育園を新たに建設したことから、経常経費もそれなりにかかることから変わらないところです。

(松井委員長)

B(予定よりも遅れている)の評価のプログラムについては年度末に向けてどのようになるのか。

(財政課長)

プログラムNo.20の財務指標の改善については、補正予算の機会をとらえ、財源が確保された場合には、財政調整基金を優先して回復に努めていきたい。

(産業振興課長補佐)

プログラムNo.22の市内産業の育成については、創業セミナー、すだちの講習会など予定どおり実施、又は募集中であります。

(松井委員長)

プログラムNo.22の市内産業の育成の成果指標の法人市民税調定額はわかりやすいが、増やすのは難しいと思う。

(収納課長)

プログラムNo.23 の市税・国民健康保険税の収納率向上対策の実施の中間評価については、たばこ税の納期の関係で翌月送りになったことが原因であったが、年度末に向けて、現年度の徴収対策を中心に、滞納処分あるいは停止を早期に見極めること、さらに給与等の継続債権の差押さえなどを進めていきます。

(行政経営課長補佐)

介護保険料の収納率については、昨年度同時期より若干、下がっているが、訪問催告や電話催告の際にも、納付のお願いに加えて、状況に応じて、口座振替の勧奨を行い、今後ともさまざまな機会をとらえて勧奨を行います。

(長島委員)

プログラムNo.25 の受益者負担の適正化の評価は単に会議をただけで結論が出ていないことから B（予定よりも遅れている）の評価が適切ではないか。

(財政課長補佐)

評価については、今後、事務局と検討していきたい。

(長島委員)

プログラムNo.30 の外郭団体の経営改善のシルバー人材について評価は A（予定どおりに進捗）になるのか。

(高齢者支援課事業推進担当係長)

就業率は下がっているが、契約金額が近年、上昇していることから A（予定どおりに進捗）の評価にしている。

(大杉委員)

来年度以降も待機児童対策ということから保育園の運営経費による扶助費は増額になるのでしょうか。

(財政課長)

今後も待機児童対策は実施していく。また、児童福祉に限らず、障がい者福祉等、福祉にかかる扶助費は増額傾向にあり、公共施設の更新も控えており、財政面はますます厳しくなってくると考えています。

(川口副委員長)

プログラムNo.18 の地方公会計制度の推進においては、統一的な基準による財務資料の導入を機に先進自治体を見習い、資料や紙をなくす努力をして頂きたい。

行政評価や行財政再構築プラン等、評価するものが多く、職員の評価疲れになってしまう。

職員意識の向上においては、研修の実施等でなく、このような会議の出席の人件費のコストを意識させればいい。

プログラムNo.23 の市税・国民健康保険税の収納率向上対策の実施における評価は、事前質問に対する回答とおりであればA（予定どおりに進捗）の評価であるべきだし、先程、指摘のあったプログラムNo.25 の受益者負担の適正化の評価は、単に会議をただで結論が出ていないことからB（予定よりも遅れている）の評価であると思うのでそのあたりは調整して頂きたい。

徴収率や収納率の向上も限界が近いのではないかと。財政健全化のために、これ以上の歳入の確保が難しいのであれば、歳出のカットを徹底するしかないのではないかと。

(財政課長補佐)

資料や紙をなくすことについては、セグメント分析において考えていきたい。

また、職員の意識向上においては、具体的な活用事例等を示しながら対応していきたい。

(5) 執行体制の再構築

(長島委員)

プログラムNo.36 のPPP/PFI の推進において、給食センター以外は検討しないのか

(行政経営課長)

それ以外については、現在、市民窓口サービスや施設のあり方の中で検討している。

(長島委員)

地元の事業者が引受けられるようにすれば、市内の産業振興につながると思う。

(行政経営課長補佐)

全国の事例から見ても大手の事業者が引受けている傾向がある。今後、そのようなことができるかどうか、公共施設の管理と市内の産業振興の関係は意識していきたい。

(松井委員長)

プログラムNo.35 の窓口サービスの改善の進捗状況はどのようになっているか。

(行政経営課長)

成果指標の窓口サービスアンケートはまだ実施していないが、昨年度に策定した窓口サービス改善の方針に基づき、申請書自動印字システムの導入等、施策の実施に努めている。

(長島委員)

プログラムNo.43 の広域連携の推進において、東京都が作成した多摩の振興プランとの関連はどうか。

(政策課長)

従来からの多摩北部都市広域行政圏協議会において、取組等、議論していきたい。

(川口副委員長)

プログラムNo.38 の施設のあり方の検討においては、各々検討した結果、どう変わるのかを示して頂かないとわからないので、今後、進捗状況調査票には記載して頂きたい。

プログラムNo.39 の民間委託等の推進においても、結果としてどのような影響があるかを記載して頂きたい。

図書館においては、具体的にどのような検討をしているのか。

(行政経営課長補佐)

プログラムNo.38 の施設のあり方の検討においては、今後、記載できるよう検討していきたい。

プログラムNo.39 の民間委託等の推進における小学校給食調理委託について、結果等記載するようしていきたい。

(行政経営課長)

図書館については、中央図書館の機能の充実と地区図書館及び分室の機能の見直しの検討を図書館協議会で実施している。

(6) 全体について

(川口副委員長)

今回の委員会は、各プログラムの進捗管理のみを行うのか。

(行政経営課長)

今回の委員会については、各プログラムの進捗管理が趣旨であり、来年度以降については、プログラムNo.14 の事務事業の見直しにおいて、各プログラムの進捗管理以外において、財源の確保や財政の見通し等について、行財政再構築推進委員会の場で議論するよう検討していきたい。

(大杉委員)

進捗管理において、より判り易くするために、グラフ化やパーセントの記載を検討してもらいたい。

(菅野委員)

評価の仕方はどうなっているのか。

(行政経営課長)

各課とヒアリングをしての1次評価、推進本部をとおしての2次評価としています

(長島委員)

進捗状況調査票において、金額の記載をして頂きたい。

また、2次評価について、本部の意見を記載して頂きたい。

(川口副委員長)

進捗状況調査票において、検討した経緯の効果等を記載して頂きたい。

取組のスピードが遅いプログラムについては、力を入れてスピードアップして頂きたい。

(松井委員長)

進捗状況調査票において、状況把握につながるよう金額の掲載等の具体化とプログラム全体のバランスをみて、評価の厳格化をお願いしたい。